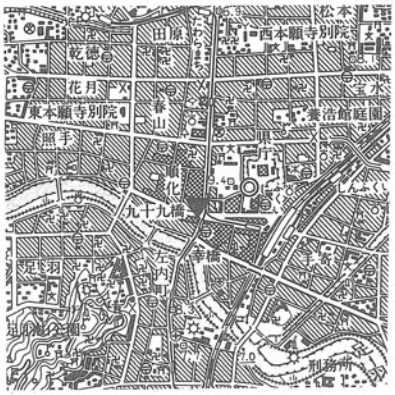
福井・福井城跡

1 所在地　福井市大手一丁目ほか
2 調査期間　一九九四年（平6）九月～一九九五年四月
3 発掘機関　福井市教育委員会
4 調査担当者　長谷川健一・田邊朋宏
5 遺跡の種類　近世城郭跡
6 遺跡の年代　縄文時代・古代～近世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

福井城跡は、現市街中央に位置する近世城郭跡である。慶長六年（一六〇一）初代福井藩主松平（結城）秀康による築城以来、幕末まで利用された。近代以降は徐々に取り壊され、今に残るのは、本丸石垣と堀のみである。なお城構えなどは、現存するいくつかの絵図などの記録から想定されている。

今回の発掘調査地は、西の外曲輪にあたる。調査では、遺構面を三面認めたが、このうち木簡が出土したのは、中世末から近世初頭と考える第二遺構面である。なお、第一遺構面は近世、第三遺構面は福井城以前の古代集落跡である。



（福　井）

木簡は現時点で一〇点確認している。これらは第二遺構面で大量に検出した、ゴミ穴（調査時仮称）から出土したものである。ゴミ穴からは、箸や曲物、漆椀など木製品が大量に出土した。

8 木簡の釈文・内容

一八区第二ゴミ穴（仮称、以下同様）

(1) 「＜□□□〔城カ〕」　109×21×6　033

(2) 「＜陌田□源五郎　(142)×34×5　039

二〇区ゴミ穴

(3) ・「＜□御川□〔杓カ〕」
・「＜□□〔郷カ〕」　(153)×43×5　033

二二区ゴミ穴

(4) ・□花〔清カ〕
・□　(45)×18×3　081

(5)　「〈不□〔択カ〕」　95×21×3　032

二六区第二ゴミ穴

(6)　〈□　(90)×25×3　039

三一区ゴミ穴

(7)　〈□　□」　(90)×25×3　033

(8)　弥雨登留亭」　(163)×25×4　059

三一区溝一

(9)　〈寿□〔美カ〕　(96)×21×5　039

F区ゴミ穴

(10)　「〈□□□〔四郎カ〕」　115×22×4　032

(1)は上辺に削り、上部左右に切り込みをいれ、下端の左右を削り尖らせる。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(2)は上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損する。下部もまた欠損している。(3)は上部左右に切り込みが入るが、その上部は欠損する。下部は緩く削り尖らせるが、先端は欠損する。(4)は上下とも欠損する。(5)は上部左右に切り込みが入るが、左側上部は欠損する。(6)は上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損し、下部もまた欠損している。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(7)も上部左右に切り込みが入るが、上部は欠損している。下部は削って尖らせる。墨書は片面にあると思われるが、不明確である。(8)の上部は欠損している。下部は削って尖らせる。(9)は上部左右に切り込みが入るが、下部は欠損する。

以上の一〇点が現時点までの整理作業で確認されているが、整理作業途上であるため、遺構名は仮称を用いさせて頂いた。このほか上部に切り込みはあるが、墨書の有無が判別できない付札状木製品が四点ある。

釈読については、足立尚計氏（福井市郷土歴史博物館学芸員）に協力を賜った。

（長谷川健一）